



つむぐ

浜松市教育研究会
 研修主任研究部
 研修だより No. 3
 令和7年11月18日

11月5日（水）に、浜松市教育会館にて今年度最後の研修主任研究部研修会が行われました。今回も浜松市内小中学校の研修主任の先生方が一堂に会し、研修を積み重ねることができました。今年度の研修テーマである「教師の資質向上を支援する充実した校内研修の創造～主体的・対話的に学び続ける教師集団の形成を目指して～」に向けて、本研究部一丸となって学びを深めるとてもよい機会となりました。先生方の御協力に心から感謝申し上げます。

第3回の研修では、令和6年度の研究指定校2校の実践発表とグループ研修が行われました。お忙しい中、発表の御準備をしてくださった大瀬小の杉浦先生、清竜中の古橋先生、本当にありがとうございました。2校の実践内容や御手洗校長先生からの御指導していただいたこと、グループ研修の様子をまとめて報告させていただきます。

【実践発表1】

「主体的に考え共に学び続ける子の育成」を目指して ～ ICT を活用した授業改善 ～

大瀬小 杉浦 由佳 先生



【子供・教員の实態】Before

- ・最後までやり通すことができる
- ・学習内容の定着が二極化
- ・主体的に物事を進めるのが苦手
- ・自分の考えを表現することに消極的

子供

- ・自分なりの授業実践ができる
- ・ICT を活用した授業実践に消極的な考え
- ・機器に対する苦手意識→活用する意欲が低い
- ・ICT 活用に対しての考え方が多様

教員

【授業改善に向けた手立て】

【全体研修の充実】

- ①ICT 研修の充実
 - ②授業改善の方向性の共通理解
- 教え込む授業→学び取る授業**
- ③授業実践の共有

【指導主事との研修】

- 授業観の言語化・再構築**
- ・教科の理解の深化、明確化
- 見方・考え方は？特性は？
- ・実践への的確なフィードバック

【学年団・教科研修】

- ・具体的な ICT 活用例
- ・「子ども理解」の視点
- ・経験に基づく知識の共有

【子供・教員の实態】After

- 主体的に学ぼうとする子が増えた
- 協働的に学ぶ良さを知る子が増えた
- 学び方を自己選択・自己決定、自己調整する子が増えた
- △確かな学力の定着 △話し合いの活発化

子供

- ICT を意図的に活用することは、子供が主体的・対話的に学ぶことに有効である
- 学習者主体の学びを目指した授業は、子供の学び方に变容が表れる
- △確かな学力を定着させるための授業実践
- △対話を充実させるための授業改善

教員

研修を進めるにあたり、研修主任として、①各教員が目的や必要感を持てる研修づくりを目指すこと。②だれでも、いつでも、声をあげられる雰囲気づくりを意識すること。この2点を心掛けたとのこと。子供も教師も、「学ぶって楽しい！！」と感じられる授業づくり、研修づくりを目指していることが伝わってきました。

【実践発表2】

「主体的・対話的で深い学び」に向かう授業改善
～ ICT の効果的な活用 ～

清竜中 古橋 寛澄 先生



【1年目】合言葉「まず使ってみる」

〈手立て〉

- ・授業、日常生活、校務、研修での ICT の積極的な活用
- ・クラスルームで実践の共有

〈生徒の成果〉タブレット型端末を…

○毎日使用…80%超

- ・使う学習が楽しい…94.7%
- ・使う学習が分かりやすい…96.3%

〈教師の成果や手ごたえ〉

タブレット型端末を…

- ・計画的な活用ができた…100%
- ・生徒の ICT 活用スキルが向上した
- ・主体的に活動できるようになった
- ・協働的な学びに有効である

〈課題〉

- ・一単位時間の授業の中での理解にとどまっている
- ・「深い学び」について知りたい
- ・ICT の活用が目的化する時があった

【2年目】量⇒**質**へ

〈手立て〉

- ・主体的な学び、対話的な学び、深い学びをピクトグラムで整理
→授業での学習活動の視点を明確に！

〈成果〉4月～9月での変容

肯定的な意見の割合が向上

- ・課題解決に向け、自分で考え、自分から
取り組むことができた
- ・話し合う活動を通して、自分の考えを
深めたり、新たな考え方に気付いたりする
ことができた

〈課題〉

- ・家庭学習の習慣が定着していない
- ・学びの楽しさを味わえていない
- ・自主性や計画性に乏しい

2年間の研修の成果もあり、ICT を効果的に活用した授業改善への手応えを感じているようで、今年度からは、自分の力で逞しく成長していく子供を育てるべく、「**委ねる**」をテーマに**校内研修を進めている**とのことでした。

【グループ研修】

- ・実践発表を受けて
- ・次年度の校内研修の見通し



グループ研修では、ICT 活用の際に、「教科の特性や本質を捉えられているのか」「量より質、効果的かどうかを考えたい」「交流が深まるには ICT なのか」といった、「本来私たちが目指すべき生徒の資質能力の育成とどう結びつけるか」という熱心な議論が各グループで交わされていました。

御手洗校長先生からは、各校での授業実践や校内研修における本質として、「何ができるようになるか」が重要であり、「自立」とは一人で戦うことを指すのではなく、周りの力を適切に求めながら生きることを教えていただきました。私たち研修主任の在り方としてヒントとなるお話でした。

1年間、研修主任研究部に御協力いただきまして、ありがとうございました。来年度も各学校の研修がますます充実されますことを願っています。
(文責 江南中 江間 駿太郎)